

<b>1 学校教育目標</b>
スクール・ミッション、スクール・ポリシーを踏まえ、校訓「自律・敬愛・創造」のもと、互いを認め、励まし、個性を高めあう教育を推進し、知・徳・体の調和がとれ、自ら考え、学び、夢に向かって行動する力を備えた人材の育成をめざす。そのため、全教職員は一体となり、教育者としての使命感と愛情を持って、家庭・地域社会との連携を深めながら、魅力ある学校づくりに努め、本校教育の充実・発展を図る。

<b>2 本年度の重点目標</b>
(1) 健全な心身の育成 ア 基本的生活習慣の確立と社会規範意識の醸成を図る。 イ 自主・自律の精神を涵養する。 ウ 他者を思いやり、命や人権を尊重する豊かな心を育成する。 エ 学校行事等の取組をとおして、帰属意識、協調性、自己肯定感等を高める。
(2) 学力の向上と進路指導の充実 ア 授業の充実に努め、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。 イ 基礎学力の定着と「わかる授業」の実践に努め、学習意欲の向上を図る。 ウ 教育の情報化を推進し、不測の事態に対応できる学習環境の整備に努める。 エ キャリア教育を充実させ、将来の目標設定と進路意識の高揚を図る。 オ 個々の能力・適性・進路目標に応じたきめ細かな指導に努める。
(3) 保護者や地域社会の期待に応える定時制教育の充実 ア 生徒に水高定時制で学ぶことへの自覚と誇りを持たせ、郷土を理解し愛する心を涵養する。 イ 情報発信と開かれた学校づくりに努め、本校教育への理解と信頼を高める。 ウ 商品開発の取組等、地域社会と連携した取組をとおして、社会の一員としての自覚を高め、視野を広げる。 エ 保護者との情報共有を図り、信頼関係に基づいた教育活動に努める。 オ 総合型コミュニティ・スクールを活用し、地域と連携した学校運営を図る。

<b>3 自己評価総括表</b>						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目標管理による学校運営の推進	学校目標の理解と重点指導の徹底	スクール・ミッション、スクール・ポリシーに沿って、定時制の特色を生かした魅力ある教育を実践する。 学校ホームページや学校通信等を活用して学校の取組を発信する。	教育活動全般における目標達成度について、評価・反省を行い指導の改善に繋げる。各部の担当者に役割と責任を与え、積極的に発信するように促す。地域と連携した商業科の取組を継続させるために組織的な体制を構築する。	B	スクール・ミッション、スクール・ポリシーに沿って、定時制教育や商業科の特色を生かした取組ができた。特に販売実習や商品開発を通して地域と連携した活動を行った。学校評価アンケートでは、生徒の肯定的な評価が昨年より増加した。また、学校ホームページや定時制通信を活用しながら、学校の魅力を発信することができた。
	安全で安心して学習できる教育環境づくりの推進	安全点検および防災教育の徹底	事故防止のための安全管理を徹底する。防災に自発的・能動的に取り組む態度を育てる。	教室及び施設等の安全点検を各学期に実施する。年度当初に避難経路を確認させ、消防署の指導の下、防災訓練を実施し、生徒の防災意識を高める。	B	定期的に安全点検を実施し、必要に応じて対応した。年度当初に避難経路の確認を行った。防災訓練は水俣消防署において研修を実施し、組織全体の防災意識が向上した。
		保健衛生指導の充実	感染症予防に対する意識を向上させ、TPOに応じて臨機応変に行動できる態度を育成する。	チェックシートやICTを活用して健康観察を行い、熱中症等に注意しながら感染拡大防止に取り組む。	B	ICTを活用して毎日検温等を行い、定期的に教室の換気を実施しながら、学校内での感染拡大を防止した。

	生徒理解の推進	生徒理解と課題・指導の共有化と一人一人の居場所がある学校づくり	個別・最適な指導により学ぶ意欲を喚起させ、自己発見、自己実現を支援する。特別な配慮や支援が必要な生徒の育成を組織的に行う。生徒・保護者と信頼関係を築きながら登校を促し、中途退学者を減少させる。	個別の面談等を通して生徒理解を深めるとともに全職員で支援する体制を構築する。生徒理解研修会を年に5回程度実施して情報共有を図る。関係機関と連携しながら合理的な配慮や個に応じた指導を行う。	B	毎日の連絡会において生徒の情報を共有しながら組織全体で対応する体制ができた。年間5回、生徒理解研修を実施し、授業中の様子や家庭状況等に関する共通理解を図り、必要な生徒には保護者や外部の関係機関と連携しながら対応した。学習支援が必要な生徒には個別に対応した。
	業務改革	業務の効率化	一人に負担がかからないように、組織的に業務を遂行する体制を構築する。ICTを活用した業務の効率化と情報の共有を図り、ペーパーレス化を促進する。	各分掌において業務の円滑な遂行を検討する。煩雑な業務や従来のシステムを見直すために、改善案の試行を実践しながらより効果的なシステムを構築する。	C	コロナ禍で中止となっていた学校行事や販売実習等を実施することができたが、職員の負担が増えた。各業務に関しては、ICTの活用により、ペーパーレス化は進んだが、その他の具体的な業務削減やシステムの改善等はできなかった。
	働き方改革	職員の意識改革	超過従事時間の削減を促進するだけでなく、ストレスなく業務に専念できる職場をつくる。	特定の職員に業務が集中しないような分業体制を確立する。年間を通して定時退勤、年休等取得を促進する。	B	分業体制は今後の課題だが、月45時間以上の超過従事時間の職員はいなかった。年休等の取得を呼びかけ、以前より取りやすい環境となった。
学力向上	授業力の向上	公開授業・研究授業・授業評価の実施	全職員が、それぞれ1回以上の研究授業を行う。また、ICTを積極的に活用し、一人一台に対応できる授業づくりを進め、新学習指導要領の主旨に沿って、主体的な生徒の学習への工夫を行う。	教務部が企画・立案し、全教科で取り組む。また他校のリモートによる公開授業に積極的に参加する等、新たな公開授業のスタイルに即した教師の研修の機会を確保する。授業評価の結果を早期に分析し、授業改善に努める。また新課程において求める力を具現化した評価を行う。	B	研究授業については、全職員が実施することはできなかったが、県教育委員会学校訪問の際には、数学の授業で研究授業を実施した。また、授業におけるICTの活用は推進されて、情報交換も積極的に行われた。新課程に移行して評価方法も大きく変わったが、その対応も着実に進めた。
	基礎学力の向上	基礎国語など、学校設定科目や基礎科目の充実	学校設定科目や基礎科目で中学校の学び直しを行い、基礎学力の向上を図る。1年生の授業においてT・Tを有効に行う。	教務部が企画・立案し、当該年次、当該教科で取り組む。教師の授業力を高め、生徒のやる気を引き出し、主体的な学習を促す。	A	基礎国語をはじめとして各教科において、基礎を主眼においた授業内容を展開し、成果を上げた。3学期にはキャリアアップ講座を設け、基礎学力のさらなる向上と定着を図った。
キャリア教育 (進路指導)	個に応じた進路指導の推進	生徒個人の進路目標の明確化と卒業予定者の進路決定と在校生の就労率の向上	卒業予定者の進路保障と在校生の就労率を50%まで高める。商業関係の検定受験を勧める。	卒業予定者の保護者と進路面談を実施する。進路指導部と各担任との連携を深める。商業関係の検定前課外学習を1週間程度実施する。	B	保護者、本人の意向を尊重した指導を施し卒業予定者の進路指導につなげた。就労率は約63%となった。検定にも積極的に取り組み、延べ5名が合格できた。
	進路意識の高揚	キャリアパスポートの活用や進路関係行事の実施	キャリアパスポートの活用方法を探る。各担任より学期1回程度の聞き取りをする。進路セミナーや進路関係行事等を年度2回程度実施する。	進路指導部が立案し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら、外部関係機関と連携を密にして全職員で取り組む。	B	新型コロナウイルス感染症の拡大でインターンシップは中止となったが、外部講師を招へいして進路講演会を実施した。また、キャリアパスポートの作成により自己を見つめ、思考の履歴を残せるようになった。キャリア

						サポートの活用は来年度以降の調査書等に活かされ、来年度が完成年度である。
生徒指導	社会性の向上	登下校時における交通ルール遵守等の規範意識の向上	交通安全教室の実施、及び交通安全について日々啓発することにより、規範意識の向上を目指し、交通事故防止を図る。	交通安全教室の実施および登下校指導、ホームルーム活動において啓発活動の内容を充実させる。	B	交通安全教室を地元の自動車学校で実施した。体験型の内容であり、生徒は通学方法にあわせてコース別で参加した。今年度は交通事故発生件数が0件であり、事故防止の目標を達成した。今後も自動車学校との連携が必要である。
		挨拶、マナー、時間厳守等の基本的な生活習慣の確立	挨拶の励行によって、気持ちの良い学校生活を送れるようにする。情報モラル教育を強化し、トラブル防止を図る。	授業の開始や終了だけでなく、学校生活の様々な場面で生徒間、職員間で挨拶をするように指導する。情報モラル教育の講演会等を実施する。	B	全体的に校内において、声を出して挨拶をする生徒が増えた。また、校外学習や文化祭等の行事においても職員以外の方に挨拶をする場面が見られ、好感を持たれる生徒が増えた。職員全体で取り組む必要性を感じた。
	健康教育の推進	禁煙指導・薬物乱用防止の徹底	講演会や教科「保健」において喫煙、薬物の根絶を目指した内容を取り扱う。	外部講師を招へいし、喫煙および薬物の身体や社会的影響等の内容に関する講演会を実施する。	A	地元の警察署から講師を招へいして講演会を実施した。薬物のサンプル等を見せていただき、生徒たちは興味関心をもって受講することができた。昨年度は薬剤師の方に来ていただいたが、様々な職種の講師を依頼することで、深い学びができて効果が上がった。
人権教育の推進	推進体制の確立と研修の充実	職員の人権意識の向上と深化を図り、生徒の人権意識の向上につなげる。	校内の年間職員研修計画の作成と実施する。年間3回程度の生徒の特別活動(LHR)等年間計画の作成と実施する。	新型コロナウイルス感染症拡大防止に注意しつつ、職員の人権意識の啓発を図る。人権教育主任と生徒指導部が立案し、学校全体で取り組む。	B	校外の研修に関しては新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施が限られていた。そのため回覧等で情報を共有することで研修の一環とした。また、別途定時制独自で生徒・職員向けの研修を実施した。
	「命を大切にすること」を育む指導の推進	「命」や「生きること」の考察をおとした自己肯定感と他者を思いやる心の育成。	「命」の大切さの認識や体験をおとした自己肯定感の向上と、他者と良好な人間関係を構築させる。	生徒が安心して学校生活を送ることができるように配慮する。また、授業や特別活動において、生徒が主役となり、自分の存在感を感じることができるような場面を提供する。全職員で常に意識して取り組む。	B	特に「総合的な探究の時間」や「特別活動」の時間に生徒が様々な体験をすることで、自己肯定感を高めることができた。相手の気持ちの理解や周囲へ心配り、また、他者と協働する社会性や自立心、道徳性が育成されつつある。
	教科指導における取り組みの推進	「分かる授業」の工夫と改善	生徒の課題やニーズに応じた学習指導の工夫をする。	教務部と連携して、「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」を目指し、ICTを活用しながら全教科・全職員で取り組む。	B	定時制での多様な生徒がいる中、学習プリントの作成の工夫や教えあいなどより、個に応じて授業に取り組みやすいような手立てを講じた。

いじめの防止等	いじめの未然防止と事態への対応	生徒指導部及びいじめ防止対策委員会を中心とした取り組み	いじめを許さない学校づくりの環境をつくる。SNS等による、いじめ対策として全生徒を対象に指導を行う。また、いじめの早期発見と早期解決を実践する。	生徒会を中心に「いじめ根絶宣言文」を作り、全生徒に取り組むように指導する。スマートフォンのメリットや危険性を学ぶ講演会を実施する。また、生徒に担任を通じてLHRの時間等で「いじめ」について考えさせる。各学期にいじめアンケートを実施する。	A	定期的に面談や「心のアンケート」を実施し、生徒間でのトラブル等の情報を把握した。事案に対しては担任や関係職員だけでなく、いじめ防止対策委員会等を通して組織的に対応し、解決に導くことができた。また、生徒と保護者に対して、スマートフォン等の使用に関する講演会を開いた。
特別支援教育	生徒の教育的ニーズに対応した支援の推進	個々の生徒に応じた支援計画の実施と、適切な指導の充実	支援を要する生徒への理解を深め、個々に応じた支援を推進する。生徒・保護者の教育的ニーズを理解し、合理的な配慮を行う。	生徒理解研修や日々の連絡会をとおして生徒の実態を把握し、職員の間で共通理解を深める。スクールカウンセラーやSSW、専門機関等と連携しながら、支援の検討を行い実施する。	B	日々の連絡会において、各学年から生徒の状況を報告した。また、年間5回の生徒理解研修をとおして、生徒の特性の理解をすることができた。ADHD傾向にある生徒の事例検討を行ったり、SSWの利用についても連携を密にして生徒、保護者の利用につなげた。
環境教育	地域と連携した環境教育の推進	「環境首都みなまた」実現のための学校版環境ISOの取組	学校版環境ISO宣言項目を徹底し、全日制と連携しながら取り組む。また、教科において循環型社会の内容を取り扱い指導する。	地域における、ごみの分別ルールに従い処理し、コンタクトレンズケース等の回収を行い、地域活動に参加する。外部講師を招へいし、環境教育講演会を実施する。	B	校内においてゴミの分別箱を設置した。生徒、職員とも高い意識を持って取り組み、日頃から分別する行動が身についた。教務部とタイアップして環境教育講演会も実施し地球規模で考えるSDGsを学ぶことができた。
	学習環境の整備と推進	環境美化意識の醸成と実践力の育成	環境整備を意識して主体的に取り組める生徒の育成を目指す。	生徒、職員で毎月1回エコスクール・チェックシートを活用し、環境整備の意識を涵養する。	B	毎月1回、ICTを活用し、エコスクール・チェックシートを提出させ、エコについて意識させた。今後は内容の精選が必要である。
(コミュニティ・スクールなど) 地域連携	家庭・地域への定時制教育の周知	地域住民に対する、定時制教育についての情報発信	学校行事を中心に定時制の教育活動についての広報活動を充実させる。学校ホームページや学級通信等を活用し、保護者や地域等へ魅力を発信する。	学校行事や商業科の販売実習をとおして定時制の教育活動の成果を公開する。学校ホームページを随時更新し、特色有る取組を紹介する。	B	文化祭等の学校行事、また、地域や東京での販売実習等を通して定時制の教育活動を紹介した。さらに、学校行事や講師招へい授業等の様子を学校ホームページや市広報「みなまた」等のメディアを通して発信した。
		保護者会の開催と学校行事等への保護者参加の推進	保護者との連携・協力体制を構築する。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ICTや書面等で保護者の協力を仰ぐ。毎月「定時制便り」を発行し、生徒の学校生活の様子を伝える。	B	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため毎日の健康観察をICTで行い、保護者の協力を得ながら家族の体調も報告していただいた。「定時制便り」を毎月発行し、学校行事を中心に生徒の様子を家庭に知らせた。
		総合型コミュニティ・スクールとしての地域との連携・協力体制の構築	教育活動の改善のための地域連携体制を確立させる。	学校運営協議会等において本校の教育活動の現状や課題等、また、防火避難訓練等の取組を報告し、地域が期待する教育の在り方についての意見を聴取する。	B	コロナ禍のため本年度は防災に特化した学校運営協議会は実施されなかったが、地元の企業と連携した販売実習や水俣消防署での防火避難訓練を通して地域との連携・協力体制を構築した。

#### 4 学校関係者評価

##### (1) 学校評価結果について

委員の皆様からは、学校の取組に関して教員と生徒の思いが合っており、成果が出ているとの好評をいただいた。また、体験入学においても中学生が生き生きと参加する姿が見られた。来年度からは部活動の見学等を増やしていただきたいというご意見もあった。委員の皆様へのアンケート結果においても各項目において高い評価をいただいた。

##### (2) 登下校の交通安全や地域周辺の状況等について

今後、自転車通学生徒へのヘルメット着用に関する取組をどのように対応するのか、また、学校プール付近の木が大きく成長しており近隣の住民の方が困られており、対応していただきたいのご意見があった。

##### (3) 地域への情報発信、及び地域との連携について

半導体大手会社TSMCの熊本への誘致に関して、今後学校としてどのような取組をしていくか、また、地元企業の説明会等に関しては学校との打ち合わせや事前の準備を充実させて、工夫していきたいのご意見もいただいた。今後は地域の皆様からのご意見を謙虚に受け止めながら、教育活動を充実させていきたい。

#### 5 総合評価

##### (1) 学校教育目標について

スクール・ミッション、及びスクール・ポリシーを踏まえ、校訓のもと今年度の教育スローガンである「何事にも当事者意識を持ち、主体的に行動できる生徒の育成」を念頭に置き、定時制職員が一つのチームとなって取り組んだ。学力向上に関しては、基礎学力を主眼に置いた授業を実施することで、生徒の理解を深め、出席率や主体性を高めることができた。さらに、検定試験の取組や学校独自のキャリアアップ講座などをとおして、生徒の学力を向上させることができた。生活環境等に課題がある生徒や心の悩みを持つ生徒に対しては、SCやSSW等の外部機関と連携して組織的な対応をしながら支援を行った。

##### (2) 本年度の重点目標について

「健全な心身の育成」については、日ごろからお互いの人権を尊重した言動や行動を意識して教育活動を行った。また、定期的に人権教育のLHRや職員研修を実施した。学力向上に関しては、検定試験にチャレンジする生徒が長期休業期間中に登校し、自主学習に励む姿が見られた。校外での販売実習、交通安全教室、定時制通信制体育大会、文化大会、防災訓練、御船町方面への校外研修、校内文化祭等をとおして主体的に学ぶ姿勢を育成することができた。学校ホームページ、新聞への掲載、東京銀座館での販売実習等をとおして情報を発信した。また、地域の店舗と連携して商品開発や講師招へい授業等を行いながら、生徒の体験学習の機会を増やすとともに学校の魅力発信に取り組んだ。

##### (3) 自己評価総括表について

生徒・保護者への学校評価アンケートの結果は昨年度より肯定的な評価項目が増えた。働き方改革を意識した業務削減や改善に関しては、まだ十分ではないが、昨年度から導入されたクロームブック等のICT機器を活用しながら効率化を図った。感染対策に関しては、昨年同様にICT機器を活用しながら、毎日の健康観察を行った。学校ホームページは行事ごとに更新しながら、タイムリーな情報をわかりやすく発信した。また、昨年より生徒や保護者の意見を聞きながら校則の見直しを実施している。学力向上に関しては、支援が必要な生徒に対してティーム・ティーチングで個別に対応するなど、生徒が主体的に授業に取り組む姿勢を育成した。生徒指導に関しては、毎日の情報交換や定期的に行う生徒理解研修をとおして職員全員で情報を共有しながら組織的に対応した。人権教育に関しては、学期ごとに学校独自のアンケートを実施していじめ防止の意識を向上させた。環境教育では、エコスクール・チェックシート等を利用して美化意識を向上させた。

#### 6 次年度への課題・改善方策

##### (1) 感染対策の改善、生徒の心身の健康、及び安全な学校づくり

ア 新型コロナウイルス感染症の扱いが変化する中で、学校生活においてもマスク着用等に関して、お互いを尊重する雰囲気をつくる。感染者等への配慮や人権意識を持つ生徒を育成する。

イ 日常から担任だけでなく、組織全体が生徒の出欠状況等を把握できる体制をつくる。外部団体と連携しながら、生徒や家庭を支援する体制を構築する。

ウ 防災意識の向上、及びいじめ等がない安全な教育環境の整備に引き続き取り組む。

##### (2) 新学習指導要領の充実とICT機器の活用

ア 新学習指導要領が2年目に入るため、昨年度の反省を生かしながら、各教科で評価に関する3つの観点を明確化させ、授業改善につなげる。定期的に研究授業を実施する。

イ 一人一台端末の活用をさらに発展させながら、生徒の学力向上に加えて家庭への情報提供を今まで以上に円滑に行う。

##### (3) 地域との連携の強化、及び継続

ア 今まで以上に、学校の取組や情報等をタイムリーに発信する。

イ 地域を担う人材育成、及び現在の取組を継続的に実施できるような組織や体制を構築する。